

N 中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）

発行人 南部 美智代

No. 200

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 3-8 中北ビル 5F

Tel 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

予 告

2023 全国研究集会 in 愛媛 Hybrid 開催

6月9日 14:30 ~ YouTubeLive で生放送！

しまなみ街道

中央労福協は 2023 年 6 月 9 日（金）14:30 ~ 17:00、「2023 年度 全国研究集会 in 愛媛」を Hybrid 開催する。

今年は愛媛県松山市にある松山市民会館中ホールから、YouTubeLive で生配信する予定。一般にも公開するため、加盟団体関係者のみならず、広く役職員・組合員、友人・知人、ご家族など、視聴の呼びかけをお願いしたい。当日は全国どこからでも、どなたでも、PC やスマートフォンからアクセスし、参加することができる。

昨年の静岡での全国研究集会に続き、今年も「若者」をテーマに取り上げる。「結果重視からプロセス重視へ」、「集団から個へ」、「画一性から多様性へ」、昭和から平成、令和へと時代が変わりゆく中で、私たち社会を取り巻く「価値観」は大きく変化した。そして令和の幕開けとともに訪れたパンデミックは DX を急速に進展させ、また 2025 年にはデジタルネイティブやソーシャルネイティブと言われる Z 世代が生産年齢人口の半数を占める時代が到来する。私たちはいま加速度的に変化を続ける時代に生きている。

2030 年の国連 SDGs の達成、労福協の 2030 年ビジョンの実現に向け、私たちは新しい視点を持ち、今まで接点のなかった層へとつながりを広げていく必要がある。2022 静岡では「若者を知る、若者の目線に立って」をキーワードに、若者たちの持つ感性、価値観、考え方や生き方にふれた。2023 年はこの学びをさらに深掘りして若者

への解像度を上げていくとともに、同じ時代を生きている者同士が世代を超えてつながり合い、社会や地域の課題に取り組む実践者たちをゲストに招き、若者を基軸にさらに世代間の連携・協同の可能性について考察する。

●一般の方へ参加方法のご案内

本研究集会は「YouTubeLive 生配信」と「会場での参加」の Hybrid 開催です。

①「YouTubeLive 生配信」視聴による Web 参加

当日、時間になりましたら特設サイトから生放送をご視聴頂けます。

② 現地の会場に行って会場参加する

一般のお客様は特設サイトから詳細情報をご確認の上、「会場参加申し込み」を行ってください。

特設サイトはこちらから！▶

※現在、仮サイトを表示しています。本公開は 5 月中下旬を予定しております。QR コードは変わりません。公開まで今しばらくお待ちください。



【！】これは「一般の方向け」のご案内です。

中央労福協加盟団体関係者の皆さまは、すでにお送りしている「開催案内」の通りお申込み下さい。

No.200 Topics

- 2 面 ネットワーク社会における協働のあり方
- 3 面 助け合い・支え合いの現場から第 6 弾第 3 回

第 30 回 Web 学習会 ネットワーク社会における協働のあり方

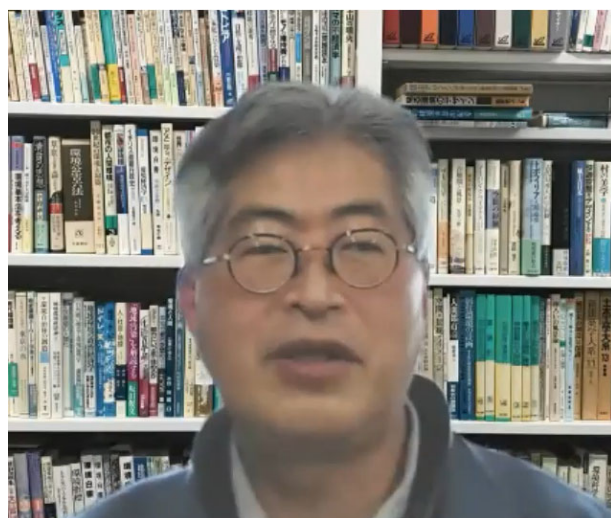
中央労福協は 4 月 11 日、近畿大学総合社会学部教授の久隆浩氏を講師に迎え、「ネットワーク社会における協働のあり方」をテーマに第 30 回 Web 学習会を開催、118 名が参加した。

久教授には、中央労福協の「2020 年度全国研究集会 in 京都」で、ネットワーク社会と求められる新しい協力社会づくりについて基調講演をいただいております、本年 6 月 9 日に開催する「2023 年度全国研究集会 in 愛媛」に向けてネットワーク社会、若者、協働に関連するお話をいただいた。

学習会では、若い人は、ゆるやかにつながるネットワークで活動を展開している。組織離れしても活動離れはしていないとし、階層組織型とネットワーク型を比較しながら特徴や事例を学んだ。

階層組織型活動は、核となる人がリーダー（引っ張っていく、仕切る、指示する人）であり、上意下達の指示・命令で一丸となって動くのに対して、ネットワーク型活動は、核となる人がファシリテーター（気づきを促す、みんなが動ける環境やきっかけをつくる人）であり、みんなで考え、自発的にできること、やりたいことを行うことが特徴であると示唆された。ネットワーク社会においては、自律性を高め、自発性を重視した運営が重要だということを、オランダの教育や、働きアリの法則の事例を踏まえながら説明された。

久教授はまとめに、「協働」そのものがネットワーク型



活動である。「協働」により、共有した目的のために、異なった立場の人や団体が、それぞれの特性に合わせて活動を行い、それらが連携して目的を達成する。これらを踏まえ、私たちの組織活動がどうあるべきか、改めて考えていく必要があると呼びかけた。

< 次回の学習会（5 月 9 日） >

昨年開催した「2022 年度全国研究集会 in 静岡」でファシリテーターを務めていただいた、静岡大学 学長の日詰一幸氏を講師に迎え、「若者とつながる労福協運動へ」をテーマに開催します。

◆ 職員着任 ◆

2023 年 4 月 1 日付で下記 2 名の職員が新たに事務局に着任致しました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

労金協会より出向

事務局次長

中川 義一 さん

皆さま、はじめまして。労金協会から着任しました中川と申します。ろうきんでは、システム、企画、渉外、監査などを担当するとともに、労金労組の活動にも取り組んでまいりました。趣味は歩くことで、街探索や山歩きを楽しんでいます。労福協運動を盛り上げるべく精進する所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

こくみん共済 coop より出向

部長

関根 新太郎 さん

はじめまして。私は 2003 年にこくみん共済 coop に入会し、業務のかたわらで労済労連の役員を務め、その延長線上で 2019 年から 3 年間、連合本部総合企画局に出向し、お世話になりました。小川町に戻り、一緒に運動をさせていただくことになりましたので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

連載

助け合い・支え合いの現場から 第6弾



公益社団法人
徳島県労働者福祉協議会
元会長 久積 育郎 さん

第3回

公労使の三者構成による 財団法人勤労者福祉ネットワークの設立



財団設立20周年記念大杉漣ふるさとコンサート(2016年10月6日)

●“全部食べてしまった”ゼロからのスタート

ゼロから出発した徳島県労福協の最大の特徴は、公労使の三者構成による財団法人の設立であります。そもそもは労金、全労済を中心とする労働者福祉事業の出資・利用配当などの果実を全部食べてしまった中からの「福祉基金」構想としてのスタートでした。

静岡・山口・富山県労福協などの視察の中で、全国の労福協は果実を積立て新たな事業対策や福祉政策研究へ向けた「福祉基金」を設けていることを知りました。ほとんどが労働者福祉事業体での設置でしたが、その中で山口県労福協など数県で県・市町村との共同で基金を設けていました。

そこで私たちは、全部食べてしまったゼロからのスタートならば労働者福祉を共通の目的とする公労使の三者による福祉基金の財団を創ろうと考え、1995年の第2回労働者福祉メーデーで三者構成による財団法人勤労者福祉ネットワークの設立基本構想を確認し、1996年12月17日の設立認可に至りました。

設立に際しては“いつでもどこでもだれでも”が利用できる勤労者の総合福祉のネットワークをめざすことといたしました。

●“うちの子も、よその子も、まちの宝”の子育て支援

最初に取り組んだのは子育て支援事業でした。1999年に四国で初めて徳島市ファミリーサポートセンターを設立し、2002年には全国初の広域自治体設立の板野東部ファミサポもスタートしました。現在は

県内子育て世帯の9割をカバーする8ヶ所のファミサポと6ヶ所の子育て広場を運営しています。また、病児・病後児預り、ファミサポ利用助成基金、子育て支援員養成講座など、“うちの子も、よその子も、まちの宝”の子育て支援に取り組んでいます。

●“中小企業が元気になれば地域が元気になる”の中小企業支援

中小企業勤労者福祉サービスセンター（あわず徳島）は未設置4県の中での2002年設立ではありましたが、「活性化・広域化・自立化」基本構想を策定し、全国で初めての選択可能な四つの会員制度や新人マナー研修、心の健康相談室の設置などにも取り組み、現在では1,100事業所、15,000人会員となっています。

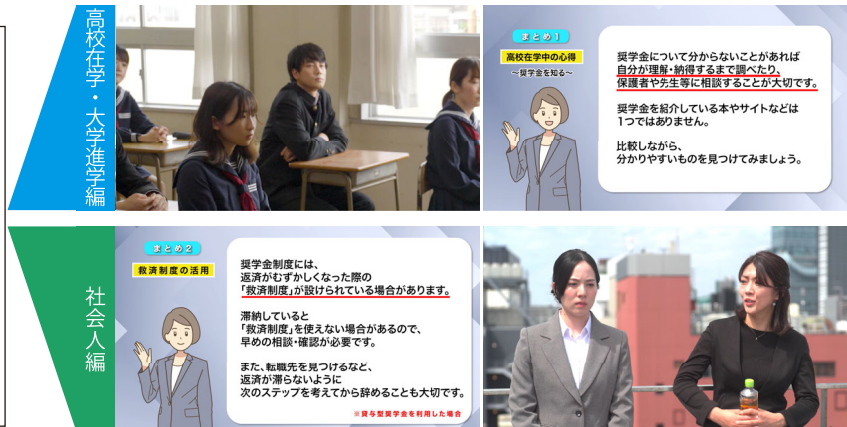
コロナ禍では全会員へのマスクの配布、ワクチンの集団接種、更にはJA産直市とのコラボによる農家支援にも取り組みました。公務職場における年度任用職員の加入拡大にも取り組み、“中小企業が元気になれば地域が元気になる”をモットーに2万人会員をめざしています。

また、“ほっとけん、なんとかできんか、なんとかせな”の市民活動を応援するソーシャルファンド「ハートフルゆめ基金」や外国人とのユニバーサルカフェ“つながり”なども実施しています。

財団設立25周年を迎え、改めて賀川豊彦の「友愛・互助・平和」の精神に基づき、労福協と共に働く者のライフステージに対応した総合的な労働者福祉をめざしています。

中央労働金庫

奨学金に対する正しい理解・行動を！ DVD とワークブックを公開



中央労働金庫は、奨学金に対する正しい理解と行動を促すため若者目線に立った金融教育教材として「新・大人社会へのパスポート3～奨学金のオモテとウラ～一知って納得！奨学金の正しい利用・上手な返済」のDVDとワークブックを制作・公開した。中央労働金庫のウェブサイトからいずれも視聴・閲覧ができる。

DVDは、奨学金にまつわる実際に起こりやすいトラブルをテーマに「高校在学・大学進学編」と「社会人編」の2本のドラマ仕立ての動画となっている。

ワークブックでは知っておいて欲しい制度や知識を解説する「オモテ編」とつまづきポイントを解説する「ウラ編」の、2つのコンテンツが1冊でまとめられている。

これから奨学金を利用する高校生・大学生や現在、貸与型奨学金を利用している学生・社会人の皆さんはぜひ視聴し、奨学金制度への理解を深めて頂きたい。



視聴・閲覧はコチラから！

(中央労働金庫ウェブサイト)



<https://chuo.rokin.com/aboutus/csr/passport3/>

連合・教育文化協会共催 第20回

「私の提言」募集



募集
テーマ

「働くことを軸とする安心社会-まもる・つなぐ・創り出す-」の実現に向けて連合・労働組合が今取り組むべきこと
(オリジナルで未発表のものに限る)

応募締切 2023年7月24日(月)

第20回

表彰

記念賞

1名

表彰盾と副賞

20万円

佳作賞

若干名

賞状と副賞

10万円

奨励賞

若干名

賞状と副賞

3万円

学生特別賞

1名

賞状と副賞

12万円
奨学金1万円×12ヶ月

☆応募者には、もれなく記念品を進呈(入賞者および審査対象外となった方を除く)。

☆発表 2023年9月28日(木)

応募資格

応募方法

どなたでも応募いただけます Webサイトの応募フォームから応募

応募・お問い合わせ先

公益社団法人 教育文化協会

E-mail info-ilec@sv.rengo-net.or.jp

電話 03-5295-5421

詳しくは

教育文化協会 私の提言

検索

